

(平成 30 年 9 月試験研究業務月報)

試験研究課題：ブナ科種子豊凶調査

(第一種特定鳥獣保護計画 生息環境調査)

情 報

ツキノワグマの主要な食物であるブナ科種子豊凶調査

当センターでは、秋のツキノワグマの出没を予測する基礎データを得るため、毎年、クマの生息地域におけるブナ科種子の結実状況（ドングリの豊凶）をモニタリングしています。

本年も、8 月後半から 9 月前半にかけて、ブナ 3 箇所、イヌブナ 1 箇所、ミズナラ 11 箇所、コナラ 24 箇所の計 39 箇所について、目視により調査し、豊凶を判定しました。

その結果、ブナ・イヌブナが「凶作」、ミズナラが「平均的な並作」、コナラが「凶作に近い並作」となりました。ブナ科種子全体では「凶作に近い並作」とであると推測しました。

今後も長期的にデータを集めるために、継続してエサ資源としてのブナ科種子の豊凶調査を行い、クマの出没状況との因果関係を調べます。

ブナ科種子の豊凶状況

樹 種	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
ブナ	並	凶	並	凶	並	凶	並	凶	並	凶
イヌブナ	凶	凶	豊	凶	凶	凶	凶	並	凶	凶
ミズナラ	並	凶	凶	凶	凶	凶	並	凶	並	並
コナラ	並	凶	凶	並	凶	凶	並	並	並	並
クリ	並	凶	並	凶	並	並	並	並	並	一※
府全体	並	凶	並	凶	凶	凶	並	並	並	並

※クリは年毎の豊凶の差が小さいため、本年は調査対象から除外した。

H22 年度は過去 10 年間の中で最もクマの目撃件数が多かった。